

＜高森台中学校区・石尾台中学校区＞ 学校統合に向けた意見交換会 次第

日 時 令和8年6月14日（日）
午前10時から正午まで

場 所 グルッポふじとう 体育館

- 1 開会
- 2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換
- 3 参加者どうしによる意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7 ～ 11	12 ～ 24	25 ～ 30	31 ～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4 ～ 5	6 ～ 11	12 ～ 24	25 ～ 30	31 ～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 2 年生	35 人
中学 3 年生	40 人

※ 中学 3 年生は令和 9 年度以降について、1 学級あたり 35 人で推計しています。

3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

(1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 規模が小さい学校のデメリット

ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会などが成立しない。）。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

(3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

6 高森台・石尾台中学校区でのこれまでの取組

- (1) 令和7年2月
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月
第1回意見交換会の開催
- (6) 令和7年12月
第2回意見交換会の開催
- (7) 令和8年2月
第3回意見交換会（石尾台）の開催
- (8) 令和8年4月
第3回意見交換会（高森台）、第4回意見交換会（石尾台）の開催

Ⅱ 児童生徒数推計について

(1) 高森台中学校区

令和22年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が1学級の「過小規模」であると推定されます。令和8年度と令和22年度を比較すると、高森台小学校は児童数がゆるやかに減少し、中央台小学校と東高森台小学校は大きく減少すると推計しています。

ア 高森台中学校 ※「やや小規模」で推移

学 年	R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)		R 11 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	66	2	93	3	89	3	94	3
2 年	95	3	65	2	91	3	87	3
3 年	92	3	93	3	64	2	89	3
合 計	253	8	251	8	244	8	270	9

イ 高森台小学校 ※R14まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (小)		R 11 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	36	2	35	1	36	2	32	1
2 年	34	1	36	2	35	1	36	2
3 年	36	2	34	1	36	2	35	1
4 年	41	2	36	2	34	1	36	2
5 年	39	2	41	2	36	2	34	1
6 年	39	2	39	2	41	2	36	2
合 計	225	11	221	10	218	10	209	9

ウ 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)		R 11 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	23	1	17	1	14	1	19	1
2 年	21	1	23	1	17	1	14	1
3 年	29	1	21	1	23	1	17	1
4 年	28	1	29	1	21	1	23	1
5 年	22	1	28	1	29	1	21	1
6 年	31	1	22	1	28	1	29	1
合 計	154	6	140	6	132	6	123	6

エ 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)		R 11 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	15	1	20	1	16	1	11	1
2 年	20	1	15	1	20	1	16	1
3 年	21	1	20	1	15	1	20	1
4 年	20	1	21	1	20	1	15	1
5 年	22	1	20	1	21	1	20	1
6 年	20	1	22	1	20	1	21	1
合 計	118	6	118	6	112	6	103	6

推計値の算出について、前回までの資料との変更点

※ 推計の基準年度をR 7からR 8に変更し、中学校のR 20 まで、小学校のR 14 までをR 8の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計しています。

※ R 22 について、前回までの資料では市が将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」から推計していましたが、直近の児童生徒数の状況を反映させるために、中学校はR 8からR 20 まで、小学校はR 8からR 14 までの児童生徒数推計の推移に基づき、将来も同様な増減の傾向があると想定して推計しています。

R 12 (やや小)		R 13(やや小)		R 14(やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
86	3	74	3	70	2
92	3	84	3	73	3
85	3	90	3	82	3
263	9	248	9	225	8

R 20(やや小)	
生徒数	学級数
40	2
54	2
62	2
156	6

R 22 (やや小)	
生徒数	学級数
51	2
53	2
40	2
144	6

R 12 (小)		R 13 (小)		R 14 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
41	2	39	2	33	1
32	1	41	2	39	2
36	2	32	1	41	2
35	1	36	2	32	1
36	2	35	1	36	2
34	1	36	2	35	1
214	9	219	10	216	9

R 22 (過小)	
児童数	学級数
34	1
34	1
34	1
34	1
34	1
35	1
205	6

R 12 (過小)		R 13 (過小)		R 14 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
15	1	12	1	11	1
19	1	15	1	12	1
14	1	19	1	15	1
17	1	14	1	19	1
23	1	17	1	14	1
21	1	23	1	17	1
109	6	100	6	88	6

R 22 (過小)	
児童数	学級数
6	1
6	1
7	1
7	1
8	1
8	1
42	6

R 12 (過小)		R 13 (過小)		R 14 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
18	1	15	1	8	1
11	1	18	1	15	1
16	1	11	1	18	1
20	1	16	1	11	1
15	1	20	1	16	1
20	1	15	1	20	1
100	6	95	6	88	6

R 22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
9	1
10	1
10	1
11	1
11	1
60	6

【参考】高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校の合計

学 年	R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)		R 11 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	74	3	72	3	66	2	62	2
2 年	75	3	74	3	72	3	66	2
3 年	86	3	75	3	74	3	72	3
4 年	89	3	86	3	75	3	74	3
5 年	83	3	89	3	86	3	75	3
6 年	90	3	83	3	89	3	86	3
合 計	497	18	479	18	462	17	435	16

R 12 (適正)		R 13 (適正)		R 14 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
74	3	66	2	52	2
62	2	74	3	66	2
66	2	62	2	74	3
72	3	66	2	62	2
74	3	72	3	66	2
75	3	74	3	72	3
423	16	414	15	392	14

R 22 (適正)	
児童数	学級数
49	2
49	2
51	2
51	2
53	2
54	2
307	12

(2) 石尾台中学校区

令和 22 年度では、中学校区内の全ての小学校が全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定されます。令和 8 年度と令和 22 年度を比較すると、全ての小学校において児童数が大きく減少すると推計しています。

ア 石尾台中学校 ※「やや小規模」で推移

学 年	R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)		R11 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	100	3	100	3	101	3	108	4
2 年	109	4	100	3	100	3	101	3
3 年	112	3	109	4	100	3	100	3
合 計	321	10	309	10	301	9	309	10

イ 玉川小学校 ※R 9 から「過小規模」になると推定

学 年	R 8 (小)		R 9 (過小)		R10 (過小)		R11 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	20	1	23	1	20	1	13	1
2 年	24	1	20	1	23	1	20	1
3 年	25	1	24	1	20	1	23	1
4 年	33	1	25	1	24	1	20	1
5 年	25	1	33	1	25	1	24	1
6 年	43	2	25	1	33	1	25	1
合 計	170	7	150	6	145	6	125	6

ウ 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)		R11 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	24	1	17	1	23	1	15	1
2 年	22	1	24	1	17	1	23	1
3 年	24	1	22	1	24	1	17	1
4 年	33	1	24	1	22	1	24	1
5 年	32	1	33	1	24	1	22	1
6 年	22	1	32	1	33	1	24	1
合 計	157	6	152	6	143	6	125	6

エ 押沢台小学校 ※R13 から「過小規模」になると推定

学 年	R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)		R11 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	22	1	28	1	25	1	17	1
2 年	36	2	22	1	28	1	25	1
3 年	22	1	36	2	22	1	28	1
4 年	37	2	22	1	36	2	22	1
5 年	35	1	37	2	22	1	36	2
6 年	24	1	35	1	37	2	22	1
合 計	176	8	180	8	170	8	150	7

推計値の算出について、前回までの資料との変更点

※ 推計の基準年度をR 7からR 8に変更し、中学校のR 20 まで、小学校のR14 までをR 8の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計しています。

※ R22 について、前回までの資料では市が将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」から推計していましたが、直近の児童生徒数の状況を反映させるために、中学校はR 8からR 20 まで、小学校はR 8からR14 までの児童生徒数推計の推移に基づき、将来も同様な増減の傾向があると想定して推計しています。

R 12 (やや小)		R 13 (やや小)		R 14 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
75	3	84	3	65	2
108	4	75	3	84	3
101	3	108	4	75	3
284	10	267	10	224	8

R 20 (やや小)	
生徒数	学級数
40	2
38	2
57	2
135	6

R 22 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
40	2
40	2
117	6

R 12 (過小)		R 13 (過小)		R 14 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
24	1	13	1	11	1
13	1	24	1	13	1
20	1	13	1	24	1
23	1	20	1	13	1
20	1	23	1	20	1
24	1	20	1	23	1
124	6	113	6	104	6

R 22 (過小)	
児童数	学級数
7	1
8	1
9	1
9	1
10	1
12	1
55	6

R 12 (過小)		R 13 (過小)		R 14 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	12	1	10	1
15	1	12	1	12	1
23	1	15	1	12	1
17	1	23	1	15	1
24	1	17	1	23	1
22	1	24	1	17	1
113	6	103	6	89	6

R 22 (過小)	
児童数	学級数
5	1
6	1
7	1
8	1
8	1
8	1
42	6

R 12 (小)		R 13 (過小)		R 14 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
21	1	13	1	19	1
17	1	21	1	13	1
25	1	17	1	21	1
28	1	25	1	17	1
22	1	28	1	25	1
36	2	22	1	28	1
149	7	126	6	123	6

R 22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
12	1
13	1
15	1
15	1
77	6

【参考】玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学 年	R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)		R 11 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	66	2	68	2	68	2	45	2
2 年	82	3	66	2	68	2	68	2
3 年	71	3	82	3	66	2	68	2
4 年	103	3	71	3	82	3	66	2
5 年	92	3	103	3	71	3	82	3
6 年	89	3	92	3	103	3	71	3
合 計	503	17	482	16	458	15	400	14

R 12 (適正)		R 13 (適正)		R 14 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
57	2	38	2	40	2
45	2	57	2	38	2
68	2	45	2	57	2
68	2	68	2	45	2
66	2	68	2	68	2
82	3	66	2	68	2
386	13	342	12	316	12

R 22 (過小)	
児童数	学級数
22	1
26	1
28	1
30	1
33	1
35	1
174	6

Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】
 児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

1 高森台中学校区

- ・ 小学校回答者数… 802 人（保護者 397 人、児童（3～6 年生）311 人、地域の方 94 人）
- ・ 中学校回答者数… 363 人（保護者 133 人、生徒 230 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 5 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 5 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	51.6%	32.0%	16.4%
	【地域】	73.4%	13.8%	12.8%
高森台小	【保護者】	55.7%	31.1%	13.2%
	【地域】	68.9%	20.7%	10.4%
中央台小	【保護者】	56.2%	33.9%	9.9%
	【地域】	75.7%	13.5%	10.8%
東高森台小	【保護者】	40.4%	31.2%	28.4%
	【地域】	75.0%	7.1%	17.9%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
高森台中	【保護者】	54.9%	36.1%	9.0%

2 石尾台中学校区

- ・ 小学校回答者数・・・ 918 人（保護者 417 人、児童（3～6 年生）374 人、地域の方 127 人）
- ・ 中学校回答者数・・・ 494 人（保護者 200 人、生徒 294 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 5 割、地域の方で約 6 割、中学校の保護者で 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全 体	【保護者】	54.7%	27.1%	18.2%
	【地域】	64.6%	11.0%	24.4%
玉川小	【保護者】	58.1%	26.4%	15.5%
	【地域】	56.8%	10.8%	32.4%
石尾台小	【保護者】	59.1%	26.3%	14.6%
	【地域】	66.0%	14.0%	20.0%
押沢台小	【保護者】	46.2%	28.8%	25.0%
	【地域】	70.0%	7.5%	22.5%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
石尾台中	【保護者】	60.0%	27.5%	12.5%

Ⅳ 意見交換会でのご質問・ご意見について

1 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、高森台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

(1) 高森台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、児童生徒数の推計についての質問が多くありました。また、学童や学校跡地についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	高森台中学校 (10月22日)	高森台小学校 (10月14日)
参加者数	12人	19人
質問・意見 () は件数	・児童生徒数推計について (2) ・スケジュールについて (1) ・統合に関することについて (1) ・学校施設の改修について (1) ・体育館の空調について (1) ・意見交換会について (1) ・学校跡地について (1)	・通学バスについて (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・統合に関することについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・スケジュールについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・授業内容について (1) ・避難所について (1) ・学校行事について (1) ・いじめ等について (1) ・少人数学級について (1) ・学童について (1) ・体育館の空調について (1)

学校名 (開催日)	中央台小学校 (10月23日)	東高森台小学校 (9月25日)
参加者数	24人	21人
質問・意見 () は件数	・統合に関することについて (7) ・通学について (3) ・スケジュールについて (3) ・学童について (2) ・学校施設の改修について (1) ・少人数学級について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校跡地について (1) ・1学級の人数について (1) ・意見交換会について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・市の考え方について (1)	・統合に関することについて (3) ・児童生徒数推計について (3) ・アンケートについて (3) ・小規模校のメリット・デメリットについて (2) ・意見交換会について (2) ・通学について (2) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1) ・市の考え方について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・過小規模校のデメリットについて (1) ・過大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1)

(2) 石尾台中学校区

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後のスケジュールやバスなどの通学について、魅力ある学校づくりについての質問が多くありました。また、学校跡地や情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	石尾台中学校 (10 月 17 日)	玉川小学校 (10 月 9 日)
参加者数	14 人	22 人
質問・意見 () は件数	・統合に関することについて (4) ・児童生徒数推計について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・現状の学校の体制について (1) ・地域の活動について (1) ・意見交換会について (1) ・情報発信について (1)	・通学バスについて (3) ・統合に関することについて (3) ・アンケートについて (2) ・通学区域の変更について (1) ・避難所について (1) ・いじめ等の対応について (1) ・少人数学級について (1) ・授業内容について (1) ・スケジュールについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校施設について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1)

学校名 (開催日)	石尾台小学校 (10 月 6 日)	押沢台小学校 (10 月 7 日)
参加者数	22 人	30 人
質問・意見 () は件数	・統合に関することについて (4) ・通学について (3) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・アンケートについて (1) ・単学級のデメリットについて (1) ・1 学級の人数について (1) ・スケジュールについて (1) ・情報発信について (1) ・意見交換会について (1)	・魅力ある学校づくりについて (5) ・統合に関することについて (4) ・スケジュールについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・学校跡地について (2) ・通学バスについて (2) ・学校選択制について (1) ・1 学級の人数について (1) ・市の考え方について (1) ・その他の市の施策について (1) ・学童について (1)

2 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、「高森台又は石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方及び今後の進め方を示し、それぞれ中学校区全体で意見交換を行いました。

高森台中学校区の意見交換会では、通学に関して心配する声やニュータウン活性化の取組をあわせて行うことについての意見が多くありました。また、話し合いの機会を増やして慎重に検討を進めてほしいなど、今後の進め方についての意見の他に、小規模校のメリットや1学級の人数についての質問に関連して、きめ細かな教育を望む意見もありました。

石尾台中学校区の意見交換会では、取組の目的についてや統合に関する市の考え方、魅力ある学校づくりなどの質問がありました。また、ニュータウン地区の現状や地域の実情の把握についてなど地域の視点にたった質問や、アンケートに関する質問も多くありました。

中学校区 (開催日)	高森台中学校区 (12月7日)	石尾台中学校区 (12月20日)
参加者数	31人	41人
質問・意見 () は件数	・通学について (3) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (3) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・教員の配置について (2) ・学校跡地について (2) ・子どもに対するケアについて (2) ・統合に関する市の考え方について (2) ・児童生徒数推計について (2) ・小規模校のメリットについて (1) ・1学級の人数について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・意見交換会について (1) ・地域への影響について (1) ・他自治体の事例について (1) ・大規模校のデメリットについて (1) ・情報発信について (1) ・配布資料について (1) ・少人数学級について (1)	・アンケートについて (3) ・ニュータウン地区の現状について (2) ・通学区域の変更について (2) ・取組の目的について (2) ・統合に関する市の考え方について (2) ・市の財政への影響について (1) ・地域の実情をしっかりと把握することについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・検討の順序について (1) ・意見交換会について (1) ・他自治体の事例について (1) ・スケジュールについて (1)

3 第3回意見交換会（石尾台中学校区）

第2回意見交換会において、「保護者の声をもっと聴いてほしい。」という意見をいただいたことから、保護者の方を対象に第3回意見交換会を開催しました。

参加者からは、取組の進捗状況や市から具体的な案を提示することなど、今後の具体的な検討の進め方についての質問が多くありました。また、アンケートや意見交換会についてでは、保護者や子どもたちの意見を多く聞いてほしいという意見がありました。

中学校区 (開催日)	石尾台中学校区（2月11日）
参加者数	12人
質問・意見 () は件数	・ 今後の具体的な検討の進め方について (4) ・ アンケートについて (3) ・ 意見交換会について (3) ・ 統合に関する市の考え方について (1) ・ 魅力ある学校づくりについて (1) ・ 小中一貫校について (1) ・ 学校の教室数について (1) ・ 他自治体の事例について (1) ・ 石尾台中学校区の進捗状況について (1)

4 第3回意見交換会（高森台中学校区）

第2回意見交換会の意見などを踏まえ、高森台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、高森台中学校区全体で意見交換を行いました。

(1) 意見交換

会の前半では、「高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、石尾台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

通学距離の基準の確認や通学方法の検討の必要性など、通学についての意見の他に、統合する場合の進め方の確認や統合による地域への影響を心配する意見もありました。

中学校区 (開催日)	高森台中学校区（4月25日）
参加者数	7人
質問・意見 () は件数	・通学について (3) ・統合に関する市の考え方について (3) ・部活動について (1)

第3回意見交換会（高森台中学校区）質疑応答一覧

No.	質 問	回 答
1	仮に統合する場合、通学バスの導入を検討すると思うが、この地区の坂道なども考慮して様々な通学方法を考える必要があると思う。(高森台小)	仮に統合する場合、通学距離が今よりも長くなる子どもは当然いると思います。配布資料の 32 ページに「登下校につきましては、必要に応じてバスの利用などの通学手段を検討します。」と記載していますように、統合する場所が決まり次第、検討していきます。
2	高森台中学校区の小学校3校と石尾台中学校区の小学校3校の統合に向けて検討が進んでいるという認識でよいか。(高森台小)	高森台中学校区の児童生徒数推計を考えると、高森台中学校区内では適正規模の課題が解決できません。そのため、市の案として、隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討するとし、隣接する中学校区として石尾台中学校区を示しました。しかし、この考えは決定事項ではなく、皆様から意見をいただく中で、統合の是非も含めて検討をしていきたいと考えています。
3	仮に統合する場合、中学校区内の小学校3校だけを先に統合するなどといった進め方は考えているのか。(高森台小)	統合するかどうかを含めて検討している状態であり、現時点で各中学校区内の小学校を先に統合してから進めるなどの考えはありません。
4	通学の距離は最大何kmまでといった基準はあるのか。(高森台小)	春日井市の通学距離の考え方について、学校を中心に円を描き、小学校は半径1.5km、中学校は半径2kmと設定しています。そのため、実際に通学する距離はこの基準よりも長くなる場合もあります。文部科学省の基準では、小学校は半径4km、中学校は半径6kmを原則としていますが、過疎地などの自治体に小中学校が1つしかなく、通学距離が基準よりも長くなる場合は、各自治体で安全性を確保したうえで、通学方法を考えることとしています。
5	春日井市の通学距離は国の基準よりも短いと思う。この基準は変更するのか。歩くことも大事であると思うので、通学距離の基準が短いと思う。(高森台小)	現時点では変更の予定はありません。
6	学校から家に帰る前に運動ができる環境をつくってほしい。周りの保護者の話でも、子どもたちのエネルギーを発散させる場所がないから非行につながると言っていた。また、部活動がなくなり、クラブチームに行くことになると親が送迎しなければいけないため、環境が整っていない子どもは参加できなくなる。そのため、統合する際は子どもたちのための環境づくりを考えてほしいと思う。(高森台小)	教育活動の中での部活動のあり方については、教員の働き方改革や新しい部活動の考え方があるので、今後どうなっていくかは具体的に申し上げることはできませんが、部活動がなくなることはないと思います。ただ、教育活動の中での部活動であるため、時間や回数が制限されることがあると思います。統合して児童生徒数が増えるということは、教員の数も増えるので、部活動の種類や活動する人数が増えます。 地域クラブ活動について、令和10年度には完全に地域展開するということになっており、学校の統合よりも先に学校間を越えて活動を行っていきます。これについては、受益者負担という形で保護者の方がある程度お金を支払い、活動を続けていくということはあると思いますが、活動がなくなることはないと思います。昔の活動から形は変わりますが、子どもたちのエネルギーを発散させていけたら良いと思います。

No.	質 問	回 答
7	受益者負担という言葉が出たが、これからの時代の国を背負ってもら子どもたちを育てるためにも、教育は一番優先すべき行政である。仮に統合する場合、藤山台小学校のような施設を建てることは難しいと思う。そのため、現存の施設を改修し、その学校に子どもたちを集め、人数が減ってきたらまた統合の検討をするのではないかという懸念がある。立派な学校を求めているわけではないが、統合によって、教育全体にかかる予算が減るのではないか。また、この地域で暮らしていくときに魅力的なまちになっていくのが心配。小学校などの公共施設が地域からなくなると、地域の方は安心して生活できるのか。今住んでいる人たちのことを考慮せず、とにかく統合してまとめてお金のかからないまちにしておもうという考え方はやめてほしい。	学校の維持管理費やリニューアル工事にかかる予算は大きく、今後、市が全ての学校を維持し続けることは難しいと考えています。統合によって、学校を維持していくことに関する予算は削減できますが、教育全体の予算が減るわけではないと考えます。例えば、維持管理費などの予算が削減できた学校に教育予算をつけてもらい、市独自で教員の数を増やすことやトイレ掃除を業者に任せるなどといったことにお金を使うことができるという視点もあると思います。 受益者負担について、就学援助を受けているご家庭などは手厚く支援されていると思いますが、これまで受益者負担なく実施してこられたのは、教員がボランティアのような形で取り組んでいたからです。部活動で練習から試合まで教員が協力できていたのが、持続可能でない世の中になってきたため、難しくなっていると感じています。 統合後の学校の跡地についてはまだ決定していません。ただ、防災や生活をしていくうえで最低限必要なものについては、残していかなければいけないと理解しています。 また、石尾台中学校区の意見交換会でも、学校の統合により地域のイベントなどがどうなるのかなど先のことが不透明であるため納得できないという意見もいただきましたので、こういった意見も踏まえて検討を進めていかなければならないと考えています。

(2) 参加者どうしの意見交換

会の後半では、3人から4人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は7人（高森台小学校区3人、中央台小学校区2人、東高森台小学校区2人）でした。

テーマ：統合に関する市の考え方について

【統合に関すること】

- ・統合することにより、授業や部活動などの子どもたちの活動の幅が広がる。
- ・統合を機会に、地域の方と協力して新しい学校運営をつくっていききたい。
- ・子どもは母校がなくなるのは嫌だと言っていた。
- ・統合する場合は、目先のことなく、10年後、20年後の将来の状況を見据えた統合をしてほしい。
- ・将来的に子どもたちが活躍できるような授業や能力開発を導入してほしい。多少費用がかかったとしても新しい設備や特別なカリキュラムを取り入れられれば良い。
- ・中学校を先に統合し、学区の概念をなくして、小学校の統合を考えればよいと思う。
- ・統合するにあたり、環境変化があると思うので、子どもたちの心のケアについても考える必要がある。
- ・中学校区をまたいだ検討も必要であると思う。

【通学に関すること】

- ・通学時の熱中症が心配である。
- ・学校が終わった後に学校外で遊ぶことも大切である。そのため、子どもたちが遊ぶ時間を確保するためにも通学時間は重要な問題である。
- ・バスを導入するかどうかやバス停をどこに置くかなど、具体的なビジョンが見えないので、不安に感じる。

【その他】

- ・統合することによって削減できるお金を教育のことに充ててほしい。
- ・不登校や障がいをもつ子どもたちのためにも、多様性に富む施設をつくってほしい。
- ・保護者だけでなく地域の人でも子どものことを考える意識が必要である。
- ・災害対策について心配であるので、避難所として活用できる体育館などは残してほしい。

5 第4回意見交換会（石尾台中学校区）

第2回及び第3回意見交換会の意見などを踏まえ、石尾台中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、石尾台中学校区全体で意見交換を行いました。

(1) 意見交換

会の前半では、「石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。隣接する中学校区として、高森台中学校区を対象とする。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

統合を考えるにあたっての優先順序や今後の検討の進め方についての意見がありました。また、ニュータウン地区のまちづくりへの影響を心配する意見や、玉川小学校区の特性も考えて検討してほしいという意見もありました。

中学校区 (開催日)	石尾台中学校区（4月25日）
参加者数	19人
質問・意見 () は件数	・統合に関する市の考え方について (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・通学について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・民生委員の活動について (1) ・玉川小学校区への対応について (1)

第4回意見交換会（石尾台中学校区）

質疑応答一覧

No.	質 問	回 答
1	石尾台中学校と高森台中学校の統合が第一なのか、石尾台中学校区内の小学校3校の統合が第一なのかなど、統合の優先順位はどのように考えているのか。（押沢台小）	市の基本的な考え方としては、クラス替えができる学校の規模を確保したいという思いがあります。石尾台中学校区内だけでの統合では適正規模の課題の解決が難しい状況にあると推計しているの、市としては中学校区を越えた学校統合の検討が必要であると考えています。しかし、石尾台中学校区と高森台中学校区を必ず統合すると決めているわけではありません。統合の必要性や、統合する場合は2つの中学校区なのか、各中学校区なのかということも含めて、今後の意見交換会や懇談会の中で皆様と検討を進めていきたいと考えています。現時点では2つの中学校区で統合を検討することが一番望ましいと考えています。
2	ニュータウンのまちづくりとして、東部地域については比較的、区画を大きくとった一軒家世帯が多く構成されている。石尾台中学校区と高森台中学校区の統合となると、URなどの地域と一緒にすることがあると思う。今、住まわっている人たちは、落ち着いた住環境や小学校、中学校が落ち着いていることを理由に、この地域で暮らすことを選択していると聞く。そのようなことから、まちづくりの観点からも飛躍して逸脱してしまうのではないのかという心配がある。（押沢台小）	ご意見のとおり、ニュータウン地区の住環境を求めて住まわれていることは承知していますし、今後も大事にしていく必要があると考えています。一方で、これまでのまちづくりや歴史はありますが、将来の子どもたちのためにどうしていくべきかという観点も同時に考えていく必要があります。まちづくりと将来の子どもたちのことを両輪で考えていかなければいけない、非常に難しい課題であると思います。 子どもたちがいきいきと社会性を身に付けながら成長していく環境のために、皆様と一緒に考えながら解決策を見つけていくという議論を今後展開していきたいと考えています。皆様それぞれ思いがあると思いますが、引き続き皆様との議論や意見交換会を通して、最善の選択を見つけていけたら良いと思います。
3	子どもたちの将来に向けての考えという部分では、過小規模校が増えていく現状で、子どもたちの交友関係が損なわれるといったことは理解できると思う。 令和22年度の児童生徒数推計の数値が資料で示されているが、これまで「リ・ニュータウン計画」で人口の減少を食い止めるという考えもあり、今後、ニュータウン構想といった形で新しくされと思う。また、高森台中学校区ではURの団地の取り壊しといったこともあり、今後、児童生徒数推計が変わるのではないのか。（押沢台小）	令和22年度の推計については、ニュータウン構想や高森台地区の再開発により変わることはあると思います。例えば、令和7年度の時には、高森台小学校の令和8年度の1年生を32人の1クラスとして推計していましたが、実際は36人で2クラス分確保できる人数となりました。高森台テラスの影響が大きいと思いますが、今後も、高森台地区の再開発が進み若い世代の入居者が増えてくれば、児童生徒数が増えることは想定されます。URが開発をどこまで進めるかということ公表していないので、分かりかねる部分もありますが、人口が増えていくということになれば、それに合わせた考え方に変える可能性は出てくると思います。

No.	質 問	回 答
4	小学校6校を統合したいということだが、その場合、小学校までの距離がかなり長くなると思う。住宅を選定する理由として、学校の距離が近いといったことも1つであると思う。学校までの距離が長くなることでの影響についてどのように分析しているのか。(押沢台小)	学校までの距離について、国の基準では小学校は半径4km、中学校は半径6kmであり、春日井市の基準では小学校は半径1.5km、中学校は半径2kmとしています。学区が広くなれば、通学方法を検討していかなければならないと思います。 学校の距離が近いという魅力がなくなったときにどうするかは、魅力ある学校をつくっていくことで補っていきたいと考えています。例えば、小学校5校と中学校2校を統合してできた瀬戸市のにじの丘学園では、通学方法については、路線バスを活用して通学をしています。通学距離は長くなっているものの、地区内の区画整理の影響もあり、児童生徒数が増えて学校の増築をしている実態があります。魅力ある学校づくりをしていくことで、その学校がある地域を選んでいただくことに努めていけたら良いと考えています。
5	小学校6校の統合を市の方針として示しているが、今後どのような流れで進めていくのか。意見交換会を開催するにつれて、考え方がエスカレートしているように思える。市の考え方も少しずつ狭まってきていると思うが、今後の方向性について教えてほしい。(押沢台小)	現在は、高森台中学校区との統合も視野に入れた、中学校区を超えた統合に向けての検討を進めています。市の考え方を1つの目安としてお示ししないと、地域の方や保護者の方の考えを聞くことができなくなってしまうため、1つの考えとしてお示ししています。今後、意見交換会や懇談会の中で、統合はまだ早いなどといった意見が多く出れば、市があらためて考えていく必要もあると思います。最終的には行政が決めなければいけませんが、行政だけで決めるわけにはいけないので、皆様からの意見をお聞きしながら統合の必要性も含めて、引き続き丁寧に進めていきたいと考えています。
6	資料 35 ページに民生委員は石尾台中学校区と高森台中学校区の合同で活動している記載があるが、以前に中学校区ごとに分ける話があった。役職が増えることもあり、現在は合同で民生委員児童委員協議会を開催しているが、実際の民生委員の活動は小学校区ごとに活動している。統合して中学校区が一緒になることで活動しやすい意味で資料に記載しているならば、実際の実態と異なる。(押沢台小)	そのような実態を今回初めて聞きましたので、実際に民生委員を所管している福祉政策課にも話を聞いた上で、どういった活動が望ましいのかということも合わせて考えていきたいと思っています。
7	ニュータウン地区の話が多いが、玉川小学校区は農村部であり、唯一違うと思うので、その部分を含めて考えてほしい。また、通学距離について、玉野台から他の学校に通うとするとかなりの距離がある。そのような玉川小学校区の特性なども考えて検討してほしい。(玉川小)	玉川小学校区も石尾台中学校区の1つの小学校区であり、ニュータウン地区として一体的に捉え、まちづくりの観点も含めて検討していきます。

(2) 参加者どうしの意見交換

会の後半では、4人から5人で一つのグループになり、参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は17人（玉川小学校区5人、石尾台小学校区6人、押沢台小学校区5人、その他の小学校区1人）でした。

テーマ：統合に関する市の考え方について

【統合に関すること】

- ・自分の子どもが学級数の少ない小学校を卒業し、中学校、高校では学級数が大きな学校で多くの人と関わるため、ストレスを感じていた。そのため、小学校から様々な人と関わることも大事であると思う。
- ・市の方針をより具体的に示した方が、統合の検討も進めやすいと思う。
- ・仮に統合する場合、今と同じような学校ではなく、教育や施設など特色のある学校をつくってほしい。
- ・そもそも1学級35人ではなく、30人が実現出来たら適正規模の考え方も変わらと思う。
- ・高森台中学校区との統合について、先のことを考えれば仕方のないことだと思う。
- ・急いで統合する必要はないと思う。多くの子どもたちと学校生活を送ることが必要と考えているなら、学校の行事や授業を他の学校と合同で行えばよい。
- ・高蔵寺ニュータウンを2つのまとまりで考えればよいと思う。
- ・中学校を統合することは早いと思うので、まずは小学校を先に統合するべきである。
- ・統合するのではなく、小規模校として運営するなど、特色ある運営方法を実施してほしい。
- ・人間関係に悩んだ際に1学年1学級であるのは不安。複数の学級があることで環境をリセットできる環境が必要である。
- ・先生の数が多いほうが、子どもたちのことをしっかりと見てもらえる。そのため、統合には賛成。しかし、通学の面が心配である。
- ・学校が近く住みやすい場所で生活していたのに、統合で学区が広がることによって、保護者の目も行き届かなくなると思う。
- ・子どもたちは今の環境で十分に仲良くしている。仮に統合する場合、新しい環境に慣れることができるか不安であるため、現状のままで良いと思う。

【通学に関すること】

- ・統合して通学区域が広がると、中学生は問題ないと思うが、小学生は体力面などから不安がある。
- ・通学バスを利用するのであれば、路線バスを利用するのではなく、貸し切りバスを用意するなど、市が責任もって準備してほしい。
- ・学校は自宅から歩いて通える位置にないといけないと思う。バスで通学するにしても、子どもにとっては負担になると思う。

【まちづくりに関すること】

- ・石尾台小学校や押沢台小学校では地域のお祭りやイベントを開催している。学校統合によって、イベントがどうなるのかが分からなくて不安である。
- ・防災や福祉の観点など、ニュータウンのまちづくり全体で考える必要がある。
- ・玉野台には、学校が近く、静かな環境であるという理由で引っ越しをしてきた人が多い。そのため、統合により学校がなくなると、地域が廃れると思う。
- ・地域の交通網が縮小化されていくことや子どもたちの通学が不安。まちづくりについても考える必要がある。

【その他】

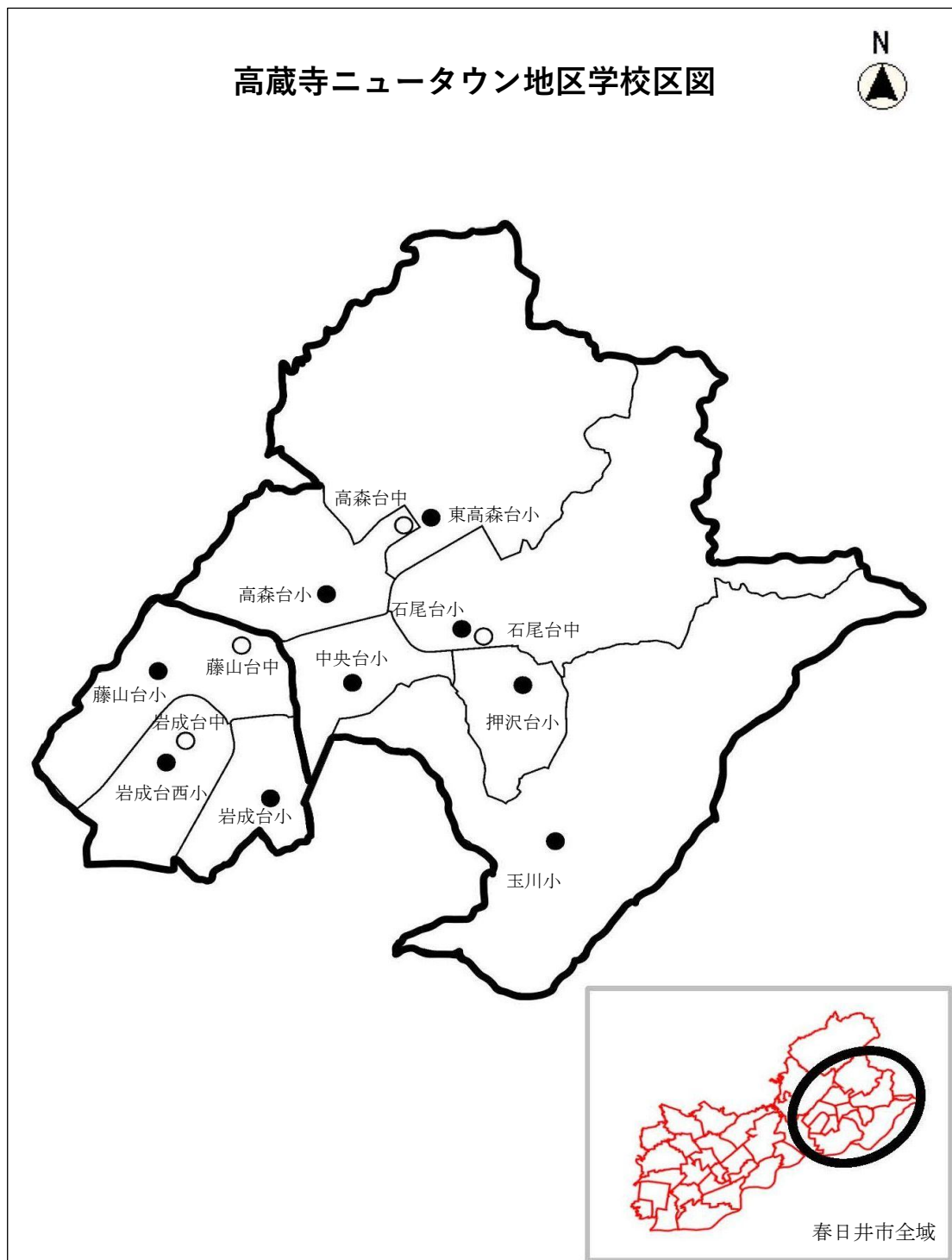
- ・先生が1学年に1人だけであると、先生の負担が大きいと思う。複数の先生がいる環境が必要であると思う。
- ・自分の地区の学校は残したいと多くの人が思っている。市はどのように進めていくのか不安に思う。
- ・統合によって学校数が少なくなり、リニューアル工事にかかる費用や維持管理費が削減できるなら、削減したお金を教育に関することに使ってほしい。
- ・学校統合が単純な児童生徒数の数合わせになってはいけない。統合によって学校規模は大きくなり、その学校に関係する地域の規模も大きくなるので、地域も一体となって考えていかなければならない。
- ・私の母校はすでになくなっているが、母校がなくなっても、皆の心の中にある。
- ・魅力ある学校とは何か。
- ・石尾台中学校区と高森台中学校区の野球チームは約10年前に統合している。
- ・交友関係に縛られることなく、学校生活を送ることができると思う。

※ 各意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

V 学校統合に向けた基本方針の策定について

本市は、平成 28 年に高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定し、高蔵寺ニュータウンにおいて住民や関係団体と連携しながら、グループふじとう（高蔵寺まなびと交流センター）や西藤山台運動交流ひろば・ノキシタプレイスの整備を始め、地域住民等と連携した多様な移動手段の確保やニュータウン・プロモーションの推進などの様々なプロジェクトを進めてきました。また、当地区は地縁団体や市民団体が活発な活動を展開しており、地域主体のイベントが多く開催されるなど、地域のつながりが強い地区であると認識しています。

こうしたことから、学校統合に向けた基本方針については、高蔵寺ニュータウン地区全体で策定することとします。



VI 高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について

子どもたちにとって『より良い教育環境の実現』を図るため、これまでの取組を踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区における学校統合に向けた方針を示します。

方針 1

高蔵寺ニュータウン地区を2つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討します。

(1) 藤山台中学校区と岩成台中学校区

【検討の対象校】

中学校：藤山台中学校、岩成台中学校

小学校：藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

(2) 高森台中学校区と石尾台中学校区

【検討の対象校】

中学校：高森台中学校、石尾台中学校

小学校：高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、
玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校

- ① 次のような地域のつながりを踏まえ、ニュータウン地区を「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区に分けることとします。
 - ア それぞれの中学校間の距離が最も近い組み合わせであること。
 - イ 藤山台ブロックと岩成台ブロックでは、PTA活動の一部を共同で実施していること。
 - ウ 民生委員・児童委員の活動では、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区で民生委員児童委員協議会を開催し、情報共有が行われていること。
- ② 登下校については、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討します。

方針 2

新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。

- ① 小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。
- ② 学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討します。
- ③ 地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討します。

方針 3

保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧な検討を進めます。

- ① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進めます。
- ② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信します。

【参考】

1 藤山台中学校区、岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和 13 年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和 14 年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。
小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

(1) 藤山台中学校、岩成台中学校の合計 ※R14 から「やや小規模」になると推定

学 年	R 7 (適正)		R 13 (適正)		R 19 (やや小)		R 22 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	140	4	118	4	64	2	54	2
2 年	130	4	124	4	82	3	50	2
3 年	155	4	131	4	84	3	60	2
合 計	425	12	373	12	230	8	164	6

(2) 藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R 7 (大)		R 13 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	119	4	68	2
2 年	131	4	88	3
3 年	132	4	99	3
4 年	141	5	103	3
5 年	139	4	111	4
6 年	151	5	109	4
合 計	813	26	578	19

R 22 (適正)	
児童数	学級数
50	2
55	2
56	2
59	2
55	2
60	2
335	12

※ R19 までは、R7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

2 高森台中学校区、石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計

中学校の合計では、令和 16 年度まで「適正規模」で推移すると推定されますが、令和 17 年度には、小規模ですが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定されます。

小学校の合計では、令和 22 年度においても「適正規模」を維持すると推定されます。

(1) 高森台中学校と石尾台中学校の合計 ※R17 から「やや小規模」になると推定

学 年	R 8 (適正)		R 14 (適正)		R 20 (やや小)		R 22 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	166	5	135	4	80	3	88	3
2 年	204	6	157	5	92	3	93	3
3 年	204	6	157	5	119	4	80	3
合 計	574	17	449	14	291	10	261	9

(2) 高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計

学 年	R 8 (過大)		R 14 (適正)		R 22 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	140	4	92	3	71	3
2 年	157	5	104	3	75	3
3 年	157	5	131	4	79	3
4 年	192	6	107	4	81	3
5 年	175	5	134	4	86	3
6 年	179	6	140	4	89	3
合 計	1000	31	708	22	481	18

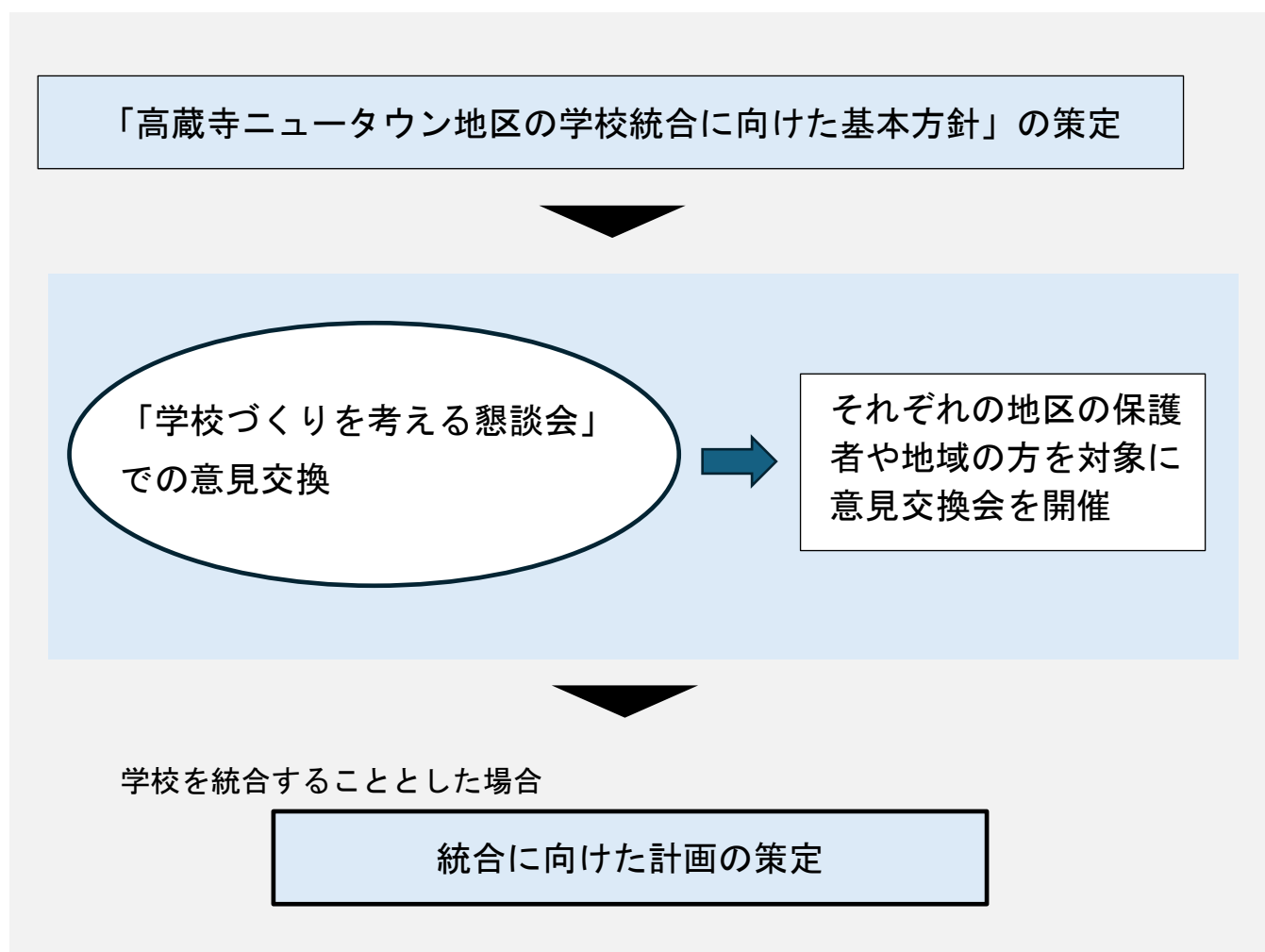
※ 中学校の R20 まで、小学校の R14 までは、R 8 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計しています。

※ R22 について、中学校は R 8 から R20 まで、小学校は R 8 から R14 までの児童生徒数推計の推移に基づき、将来も同様な増減の傾向があると想定して推計しています。

VII 今後の進め方

今後は、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区において、それぞれの保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行います。また、懇談会での意見交換を踏まえ、それぞれの地区の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催します。

その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していきます。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示します。



なお、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」でそれぞれ検討を進めていく中で、進行状況に違いが生じた場合、統合に向けた計画をそれぞれの地区で策定することを検討します。

このページは製本の都合上、白紙のページとしています。

【参考】高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区の状況

1 児童生徒数推計

(1) 藤山台中学校区

ア 藤山台中学校 ※R15から「小規模」、R16から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	60	2	70	2	59	2	51	2
2 年	55	2	59	2	69	2	58	2
3 年	75	2	54	2	58	2	68	2
合 計	190	6	183	6	186	6	177	6

イ 藤山台小学校 ※R11から「小規模」になり、R22では「過小規模」であると推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	42	2	42	2	42	2	39	2
2 年	58	2	41	2	41	2	41	2
3 年	43	2	57	2	40	2	40	2
4 年	50	2	42	2	56	2	39	2
5 年	55	2	49	2	41	2	55	2
6 年	69	2	54	2	48	2	40	2
合 計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R 11 (やや小)		R 12 (やや小)		R 13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R 19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R 22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R 11 (小)		R 12 (小)		R 13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R 22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

(2) 岩成台中学校区

ア 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	80	3	91	3	89	3	89	3
2 年	75	2	79	3	90	3	88	3
3 年	80	2	74	2	78	3	89	3
合 計	235	7	244	8	257	9	266	9

イ 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」と推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	27	1	30	1	31	1	30	1
2 年	35	1	27	1	30	1	31	1
3 年	38	2	35	1	27	1	30	1
4 年	33	1	38	2	35	1	27	1
5 年	38	2	33	1	38	2	35	1
6 年	30	1	38	2	33	1	38	2
合 計	201	8	201	8	194	7	191	7

ウ 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	50	2	42	2	42	2	37	2
2 年	38	2	50	2	42	2	42	2
3 年	51	2	38	2	50	2	42	2
4 年	58	2	51	2	38	2	50	2
5 年	46	2	59	2	51	2	38	2
6 年	52	2	46	2	60	2	51	2
合 計	295	12	286	12	283	12	260	12

【参考】岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	77	3	72	3	73	3	67	2
2 年	73	3	77	3	72	3	73	3
3 年	89	3	73	3	77	3	72	3
4 年	91	3	89	3	73	3	77	3
5 年	84	3	92	3	89	3	73	3
6 年	82	3	84	3	93	3	89	3
合 計	496	18	487	18	477	18	451	17

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3
88	3	91	3	69	2
87	3	87	3	90	3
267	9	248	8	235	8

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
54	2
57	2
148	6

R22 (過小)	
生徒数	学級数
31	1
29	1
31	1
91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
66	2	54	2	37	2
67	2	66	2	54	2
73	3	67	2	66	2
72	3	73	3	67	2
77	3	72	3	73	3
73	3	77	3	72	3
428	16	409	15	369	14

R22 (小)	
児童数	学級数
31	1
29	1
36	2
36	2
34	1
33	1
199	8

2 アンケート結果

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】
 児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

(1) 藤山台中学校区

- ・ 小学校回答者数… 398 人（保護者 180 人、児童（3～6 年生）172 人、地域の方 46 人）
- ・ 中学校回答者数… 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約 7 割、地域の方で約 9 割、中学校の保護者で約 8 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0 %

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

(2) 岩成台中学校区

- ・ 小学校回答者数・・・ 754 人（保護者 339 人、児童（3～6 年生）348 人、地域の方 67 人）
- ・ 中学校回答者数・・・ 335 人（保護者 152 人、生徒 183 人）

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 7 割、中学校の保護者で約 6 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」 と回答した方 … 賛成
「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」 と回答した方 … 反対

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
全体	【保護者】	58.1%	32.4%	9.5%
	【地域】	71.6%	9.0%	19.4%
岩成台小	【保護者】	60.2%	28.8%	11.0%
	【地域】	73.5%	11.8%	14.7%
岩成台西小	【保護者】	56.3%	35.8%	7.9%
	【地域】	69.7%	6.1%	24.2%

② 中学校

学校名	区 分	賛 成	どちらでもよい	反 対
岩成台中	【保護者】	61.8%	27.6%	10.6%

3 意見交換会

(1) 藤山台中学校区 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、藤山台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	藤山台中学校 (9月22日)	藤山台小学校 (10月15日)
参加者数	6人	18人
質問・意見 () は件数	・統合に関することについて (5) ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・アンケートについて (3) ・過大規模校への対応について (2) ・市の考え方について (1) ・学校選択制について (1) ・1学級の人数について (1) ・他市の事例について (1) ・避難所について (1) ・学校施設の改修について (1) ・地域の活動について (1)	・市の考え方について (3) ・魅力ある学校づくりについて (3) ・授業の内容について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (2) ・1学級の人数について (1) ・その他の市の施策について (1) ・過小規模校の調査・検証について (1) ・先生の意見について (1) ・統合に関することについて (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・学校選択制について (1) ・アンケートについて (1) ・他市の事例について (1) ・通学について (1) ・PTA 役員との意見交換について (1)

(2) 岩成台中学校区 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、岩成台中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	岩成台中学校 (9月26日)	岩成台小学校 (9月29日)
参加者数	6人	23人
質問・意見 () は件数	・アンケートについて (3) ・統合に関することについて (2) ・学校跡地について (2) ・スケジュールについて (2) ・その他の市の施策について (2) ・児童生徒数推計について (1) ・意見交換会について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・地域クラブの運営について (1)	・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・学校跡地について (2) ・情報発信について (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・過去の藤山台小の統合について (2) ・統合に関することについて (1) ・児童生徒数推計について (1) ・学童について (1) ・通学について (1) ・学校施設の改修について (1) ・避難所について (1) ・その他の市の施策について (1)

学校名 (開催日)	岩成台西小学校 (10月3日)
参加者数	19人
質問・意見 () は件数	・統合に関することについて (3) ・1学級の人数について (3) ・児童生徒数推計について (2) ・その他の市の施策について (2) ・通学バスについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・スケジュールについて (1) ・学校跡地について (1)

(3) 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、「藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方及び今後の進め方を示し、各中学校区全体で意見交換を行いました。

藤山台中学校区の意見交換会では、意見交換会についてや、不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くありました。また、統合に関する市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

岩成台中学校区の意見交換会では、統合に関する市の考え方についての質問が多くありました。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問がありました。

中学校区 (開催日)	藤山台中学校区 (11 月 29 日)	岩成台中学校区 (11 月 22 日)
参加者数	11 人	22 人
質問・意見 () は件数	・意見交換会について (3) ・不登校の子どもたちへの対応について (3) ・統合に関する市の考え方について (2) ・小中一貫校について (2) ・他自治体の事例について (2) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・統合前の学校間の交流について (1) ・統合する場合の部活動について (1) ・通学バスについて (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・統合の具体案を示すことについて (1) ・地域クラブ活動について (1)	・統合に関する市の考え方について (5) ・通学バスについて (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・他自治体の事例について (1) ・地域の活動について (1) ・小人数学級について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学区域の変更について (1) ・児童生徒数推計について (1) ・ニュータウン地区のまちづくりについて (1) ・教員の配置について (1) ・小中一貫校について (1) ・学童について (1) ・過去の藤山台小の統合について (1) ・今後のスケジュールについて (1)

(4) 第3回意見交換会（藤山台・岩成台中学校区合同）

第2回意見交換会で示した市の考え方を踏まえ、藤山台中学校区と岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、第3回意見交換会を両中学校区合同で開催しました。

ア 意見交換

会の前半では、「中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進める。小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の3校の統合に向けて検討を進める。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

「小学校の体育館は避難場所になっているが避難場所はどうなるのか」という意見や、「地域の生活を考えると跡地のこともあわせて考える必要がある」といった意見がありました。

また、「アンケート結果や意見交換会の参加者数について、もっと多くの方から意見を聞いて検討する必要がある」という意見もありました。

中学校区 (開催日)	藤山台・岩成台中学校区合同（3月1日）
参加者数	52人
質問・意見 () は件数	・避難所について (2) ・意見交換会について (2) ・アンケートについて (1) ・多くの方に意見を聞く方法について (1) ・跡地について (1) ・決定までのプロセスについて (1) ・教育環境の整備について (1)

イ 参加者どうしの意見交換

会の後半では、5人から7人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は38人（藤山台中学校区19人、岩成台小学校区8人、岩成台西小学校区8人、その他の小学校区3人）でした。

○参加者どうしによる意見交換の主な意見

【テーマ1】統合する場合、新しい学校に望むこと

- ・保護者と地域、学校が一緒になって学校づくりをしていきたい。
- ・英語に特化する授業や手に職がつくような知識を学ぶ授業を導入するなど、魅力ある学校づくりが必要。
- ・自分たちで考えてつくり上げる教育が大事であると思うので、授業のカリキュラムを児童生徒同士で考えることができる学校がよい。
- ・体育館が大きいほうがよい。そうすると部活動も活発になり、子どもたちが楽しく過ごせると思う。

【テーマ2】統合する場合、心配なこと

- ・学校が遠くなることで、登下校が不安になる。通学の見守りの体制など、安全をどう確保するのか。
- ・通学バスを導入する場合、利用料金や利用基準などはどうなるのか。
- ・学校の跡地はどうなるのか。また、子どもの家は統合しても、今と同じように利用できるのか。
- ・児童生徒数推計から、仮に今回統合したとしても、その先にまた統合が必要になるのではないか。ニュータウン全体での市の考えが必要になるのではないか。

【テーマ3】統合する場合、新しい学校の場所の考え方

- ・岩成台中学校と岩成台西小学校の土地で小中一貫校ができたらよい。
- ・藤山台小学校は施設が新しい。そのため、仮に統合する場合、小学校は藤山台小学校の校舎、中学校は岩成台中学校の校舎を利用してはどうか。
- ・行政コストがかからないようにしてほしい。
- ・改めて校区の見直しを図り、一番近いところに通うことにすればよい。

(5) 第4回意見交換会（藤山台・岩成台中学校区合同）

「高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）」を示すとともに、藤山台中学校区と岩成台中学校区の方にそれぞれの考えや思いを互いに知っていただくため、第4回意見交換会を両中学校区合同で開催しました。

ア 意見交換

会の前半では、「高蔵寺ニュータウン地区を藤山台・岩成台中学校区と高森台・石尾台中学校区の2つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討する。」という市の考え方を示し、意見交換を行いました。

「取り組みの根拠となる児童生徒数推計の算出根拠について明らかにし、わかりやすい説明をしてほしい。」という意見や、「何年度までに学校統合するのか。」などの具体的なスケジュールについての意見がありました。その他には、「学校の統合と並行して高蔵寺ニュータウン地区を魅力ある地区にすることで人口が増えると思う。」という意見などもありました。

中学校区 （開催日）	藤山台・岩成台中学校区合同（5月30日）
参加者数	23人
質問・意見 （ ）は件数	・児童生徒数推計について（3） ・スケジュールについて（3） ・高蔵寺ニュータウン地区のまちづくりについて（2） ・他自治体の事例について（1） ・通学区域の変更について（1） ・魅力ある学校づくりについて（1） ・意見交換会について（1） ・検討の進め方について（1）

第4回意見交換会 質疑応答一覧

No.	質 問	回 答
1	人口推計について、市の人口ビジョンには、小学校区ごとの詳細な推計値は記載されていない。配布資料の児童生徒数推計は人口ビジョンからどのように計算されたのかを資料に記載するべきである。私は統合について反対ではないが、市から市民に対して説明責任が果たされていないということは、市に手落ちがあるように感じる。(岩成台西小)	今後、令和8年度を起点とした児童生徒数推計を作成していく際に参考にさせていただきます。
2	藤山台中学校区や岩成台中学校区の人口が増えれば、学校が過小規模になっていくことはないと思う。統合の検討と並行して藤山台中学校区や岩成台中学校区を魅力ある地区にすれば、人口が増えると思う。 また、藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合する場合、近くの大い道路が危ないので整備するなどして、子どもたちが安全に学校に通えるようにしてほしい。(藤山台小)	私たちは教育委員会であるので、子どもたちのことを第一に考えていますが、統合の検討を進めていく中で、まちづくりや交通安全担当の部署とも連携して取り組んでいく予定としています。実際に現在も情報の共有はしており、今後も皆様にご心配をかけないように連携して進めていきたいと考えています。 ニュータウンの活性化について、市では「高蔵寺リ・ニュータウン計画」に基づき、施策を実施してきました。今後、新たに「ニュータウン構想」の策定を進めていくとともに、市とUR都市機構と高蔵寺ニュータウンセンター開発の3社で連携協定を結び、ニュータウンの活性化について取り組んでいくこととしています。このような取組と学校統合の取組を連携して、ニュータウンの活性化につながれば良いと考えています。
3	他の部署と連携を図っていく中で、仮に地域住民が増えてきたら、児童生徒数推計も変化してくると思う。配布資料の児童生徒推計は、地域活性化を考慮した数値であるのか。(岩成台小)	中学生は令和19年度、小学生は令和13年度までの児童生徒数推計は、現在の子どもの実数値から推計したものです。令和22年度の推計は生まれていない子どもの数も考慮して推計しているので、今後の市の施策などによって、ニュータウン地区が活性化し子どもたちが増えれば、推計値は変わると思います。 しかし、ニュータウンの活性化を待っている余裕はないと考えています。今の子どもたちの減少数から考えると、この取組は喫緊の課題として取り組むべきであると考えていますので、子どもたちが増えるような施策を実施することとあわせて、学校統合の取組も並行して進めていきたいと考えています。
4	学校の多様性について、例えば長野県伊那市立伊那小学校は多様性の学校として全国からの視察が多く来ている。また、東京都品川区では学校選択制を導入し、「品川教育ルネサンス」を推進している。このような魅力ある学校をつくらしている自治体に視察に行き、研究したりしているのか。(藤山台小)	近隣の小中一貫教育を導入している、または導入する予定がある自治体には視察に行っていますが、いただいたご意見の自治体には視察に行っておりません。直接視察に行けなくても、情報を集める手段はあると思いますので、今後も様々な学校の取組について研究していきます。

No.	質 問	回 答
5	ニュータウン全体の活性化について、団地の空き部屋が増えたことにより、団地をリノベーションして、若い世代の人たちを呼び込む活動があったと思う。この活動がどうなったか把握しているか。(藤山台小)	UR都市機構と無印良品のコラボレーションや、市と中部大学、UR都市機構が連携し、学生が地域の活動に参加するということを条件に割引を受けて入居しているということは把握しています。その中でも特に積極的に活動されている学生については、市が認定するなど継続的な支援を行うことで、地域との関わりをもち続けてもらうような取組をしています。
6	高蔵寺ニュータウンでの括りについて、仮に統合する場合、高座小学校の方が通学距離が近くなる子どももあり、あらためて区割りを見直すことが必要になると思う。その場合、高蔵寺ニュータウンでのつながりが途切れるかもしれないが、新しいつながりができるという視点に立てば解消していく問題であると思うので、区割りを見直すという視点を織り込んでほしい。(岩成台小)	各中学校区の意見交換会でも、学校区の見直しについてのご意見をいただいています。過去に藤山台小学校の統合をしたときにも、白山地区の通学区域を変更したということもありますので、今後の懇談会や意見交換会の中でこのような意見をいただいた場合は、学校区の見直しも含めて検討していくことも考えています。
7	今後、基本方針が策定され、懇談会が開催されていくとのことだが、具体的なスケジュールが知りたい。統合するにあたって、今の学校が閉校するまでに、PTA活動の基金を学校のためになるものに還元していきたいと考えている。統合が決まるまでの具体的な時期が分からないので不安である。(岩成台西小)	来月に高森台中学校区及び石尾台中学校区合同の意見交換会の開催を予定していますので、その状況を踏まえてになりますが、今年の秋頃を目途に、高蔵寺ニュータウン地区の基本方針を策定していきたいと考えています。 その後、藤山台中学校区及び岩成台中学校区の学校づくりを考える懇談会を、今年度内に立ち上げていきたいと考えています。懇談会で皆様から様々なご意見をいただいて、適宜、各地区の全員の方を対象に意見交換会を開催して、意見を共有していくように考えています。その後に策定する統合に向けた計画の具体的なスケジュールについては、懇談会や意見交換会で皆様からいただく意見にもよるので、具体的に決まっていますが、今年度内の策定は難しいと思います。
8	何年度までに学校を統合するのか決めているのか。(岩成台西小)	皆様からのご意見をお聞きしながら進めていくという方針は変えませんので、市として統合の期限は設けていません。実際に統合となった場合、新しい学校をつくるのか、既存の学校を使うのかによってもその先のスケジュールは変わっていきます。今後の懇談会や意見交換会で皆様から意見をいただく中で、今後のスケジュールが決まってくると思います。
9	期限を決めることも必要であると思う。意見交換会に参加していても、段取りやスケジュールが分からないので、示せるものがあれば教えてほしい。(岩成台西小)	現時点で具体的なスケジュールを示すことは難しいです。懇談会で皆様と話し合って議論を進めていく中で、スケジュールを示していきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
10	小規模校は子どもどうしの仲が良い、ゆったりと教育ができるなどのメリットが多くある。そのため、統合する際は子どもの個性にあったゆったりと学べるカリキュラムの導入をしてほしい。 仮に岩成台中学校の土地で統合する場合、周りの交通状況が良くない。岩成台中学校の正門前の道路は狭く、一方通行ではない。統合した後は自転車通学する子どもが増えると思うので、歩道の確保や一方通行にすることも検討してほしい。(藤山台小)	小規模校の良さについて、ご意見のとおりであると思います。ただ、1学年に2学級や3学級ある学校であっても、先生たちは同様の思いを持ちながら、子どもたちと向き合って教えています。また、学級数が多いと、クラス替えをする中で多くの人と関わることができたり、クラス対抗で競ってクラスの仲が深まったり、団結して学習や行事を進めたりできるなどの良さがあります。小規模校のままで学校生活を送っていると、高校や大学に進学した際に多くの人と関わることになるため、少し戸惑ってしまうこともあると、長年子どもたちを見ている中で感じています。そのため、適正規模の学校の中で子どもたちに良い経験をさせてあげたいという思いもありながら、統合の検討を進めているところです。 また、統合後の学校の場所についてはまだ決まっていませんが、通学の安全の確保は市が行うべきことであると思いますので、学校の場所がどこになってもしっかりと検討していきます。
11	参加者どうしによる意見交換について、意見に対する市の考えが示されていない。私は市に統合の検討について聞きたいことがあるので、質疑応答の時間をもっと増やしてほしい。また、参加者どうしの意見交換の中で出た意見はどのように反映されていくのか。(岩成台小)	参加者どうしによる意見交換については、市職員に対する質疑応答の時間ではなく、学校統合に向けて思いを語っていただく場となっています。そのため、意見に対する市の考えを示す場ではありませんが、今後、検討を進めていく中で当然参考にさせていただきます。また、意見交換会の中で意見が言いにくい、もっと質問したいことがあると感じている方は、メールなどで市にお問い合わせいただければ回答いたします。
12	意見交換会は統合を前提とした説明会のように感じる。統合は大前提として、統合の方法について検討していくのか、それとも統合するかどうかについて、まだ検討が可能なのか分からない。それによって個人的には関わり方が変わってくるので、決定事項と変更可能な部分を教えてほしい。(岩成台小)	統合の必要性も含めて検討するとしていますので、統合を決定しているものではありません。
13	児童生徒数推計の根拠をしっかりと示さないから、統合ありきで進めているのではないかと思われる。たくさんの市民がこのように考えているので、数値の根拠を示すことを真っ先にすべきである。(岩成台西小)	繰り返すにはなりますが、決して結論を決めているわけではなく、統合の必要性について数値をもって説明しています。まずは課題を共有して、本当に統合が必要かどうかを市と皆様、皆様どうして検討していただく段階にあると思いますので、決して統合することを前提に進めているわけではありません。今後の議論の過程の中で様々な選択肢があると思いますが、それらを全て排除するわけではありません。まだじっくりと検討していきたいという段階であるので、様々なご意見があるとは思いますが、最善の結論に導いていきたいと思っています。決して急いで進めていくつもりはありませんが、スピード感をもって進めていくことは当然皆様も感じていらっしゃると思いますので、上手くバランスを取りながら進めていきたいと思っています。

イ 参加者どうしによる意見交換

会の後半では、5人から6人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行いました。意見交換は自由参加で行い、参加者数は21人（藤山台小学区13人、岩成台小学校区3人、岩成台西小学校区5人）でした。

テーマ1 統合した新しい学校に期待すること

【魅力ある学校づくりについて】

- ・小中一貫教育を導入するなど、魅力ある学校をつくってほしい。
- ・子どもの個性を伸ばすことができる学校をつくってほしい。
- ・地域の方や障がいを持つ方などに関わることができる授業を多く導入してほしい。
- ・ICT教育の充実など、特色あるカリキュラムを取り入れてほしい。また、高蔵寺ニュータウン地区のICT教育について、市はもっと積極的に情報発信してほしい。
- ・藤山台小学校区に転居してきた家庭で、学校の魅力（ICT教育、新しい校舎）により選択したという方がいる。やはり魅力ある学校づくりが期待される。
- ・動物をたくさん飼育し、命を大切にする教育を行うなど、他校にない取り組みをする学校をつくってほしい。
- ・統合する際に、元あった学校のあり方をベースにするのではなく、学校名や校歌のあり方も含めて新しい学校を作る方向で取り組んでほしい。
- ・新しい学校の設立に自分が一員として携われることが嬉しい。
- ・新しい校舎、きれいな施設は登校意欲につながる。やはりトイレがきれいだと良い。
- ・ハード面の整備、トイレもきれいな方がよい。
- ・高蔵寺ニュータウンの活性化につながる魅力ある学校づくりが重要。
- ・もともと持っている地域の力が活かされる学校づくりをしてほしい。
- ・地域と学校の距離が近い方がよい。学校の授業に地域の方が関わることで、特殊なカリキュラムを組むことができる。また、交通の見守りも顔を見知った形で安心して行うことができる。

【不登校の子どもたちへの対応について】

- ・統合して空いた学校に、市内の不登校の子が校区を超えて通える学校を作るなど不登校の児童生徒が通いやすい学校がよい。
- ・不登校の子が多くなっている。行きたいときに行ける学校があるとよい。不登校以外にも障がいのある子どもなど、いろいろな子どもに対応できる学校がよい。
- ・不登校の子どもへの対応をしっかりとしてほしい。子どもたちが通いたくなる学校をつくり、他の学校区の子どもでも希望すれば通うことができる学校にしてほしい。

【少人数学級について】

- ・規模が小さい学校であると、小学1年生の時点で人間関係が決まってしまう。人間関係を固定化させないためにも、複数クラスは必要であると思う。

- ・1学級35人の基準だと先生の目が行き届かなくなり、不登校が増えると思う。そのため、小学1年生は1学級25人、小学6年生は1学級35人にするなど、各学年で1学級当たりの人数の基準を変えてほしい。

【その他】

- ・7時半ごろから小学校を開放し、子どもを預かってほしい。教員の働き方改革も進んでいると思うので、地域の方の協力のもと、開放するのはどうか。
- ・子どもにはいろいろな子と接してほしい。学年でクラス替えをするためにもある程度の子どもの数がいた方がよい。
- ・現在、子どもが通っている学校に満足している。新しい学校に望むことはない。
- ・現場の先生方の思いが大切。先生たちの意見も取り入れ活かしてほしい。
- ・統合すると学校の位置が変わる。藤山台小中学校の場所になると、他の中学校区の学校の方が近い場合がでてくる。統合を機に学校区の見直しを図ってほしい。
- ・小中一貫校は6年生が学校の最上学年という意識がなくなってしまうというデメリットがある。そのため、小学校と中学校の区切りがあった方が子どもたちのためを考えてもよいと思う。

テーマ2 統合する場合に心配なこと

【通学について】

- ・岩成台中学校と岩成台西小学校の前の道が危ない。
- ・通学バスは必ず導入してほしい。また、バスを導入する場合、バスを利用する世帯だけが料金を負担することはやめてほしい。
- ・熱中症が心配なので、通学路の途中にクールスポットを設置してほしい。
- ・藤山台中学校と小学校が近い場所に家を建てた。岩成台中学校の場所で統合する場合、家から遠くなってしまうことが心配。
- ・通学範囲が広がる。小学1年生には通学バスが必要だと思う。また、校区の見直しもあわせて考えることも必要だと思う。
- ・スクールバスが導入されるとすれば、バスが停まる場所の確保や、そこに児童生徒が集まって待つ場所があるかどうか、また地域住民とトラブルにならないような配慮も必要になると思う。
- ・校区が広がるので、交通の面、安全面が心配。
- ・通学距離が広がるからといって、スクールバスを出すのは慎重にしてほしい。
子どもは歩くことも必要。
- ・やはり登下校の方法が心配。工事などに伴い、仮の移転をする期間があるとすれば、その際の移動も危険や無理がないように配慮してほしい。
- ・歩くことが前提となるので、学校の位置は中心部にもってきてほしい。

【少人数学級について】

- ・子どもたち一人ひとりの状況を把握できるなど、小規模校の良いところがあるため、小規模校も残してほしい。
- ・小規模校のメリットを適正規模の学校にも取り込んでほしい。
- ・少人数学級を実施してほしい。愛知県から教員が配置されないなら、市の負担で配置してほしい。
- ・小規模な学校ならではの特色がある。各学校の特色は残るのか。

【子どもの数について】

- ・ニュータウン地区に子どもを増やすためにも、まちづくりの観点から検討を進めてほしい。
- ・統合したとしても子どもの数は減っていくがどう対応するか。
- ・統合して新しい学校ができるなら、魅力ある学校づくりや市の政策で子どもが増える仕組みをつくってほしい。

【その他】

- ・統合の検討を進めるにあたり、未就学児の保護者の声がとても重要であると思うが、意見交換会にあまり参加されていない印象を受ける。幼稚園や保育園に市が直接説明しに行くなど、多くの未就学児の保護者に検討の内容を知らせてほしい。
- ・統合により校区が広がり、子どもたちの遊ぶ範囲が拡大することが心配。
- ・統合後の子どもたちの人間関係が心配。統合する前に、互いの学校の交流を深めるため、イベントなどを企画してほしい。
- ・授業参観や運動会など、保護者が学校に集まる機会に行きにくくなる。保護者への支援も必要。
- ・子どもたちだけでなく、各学校の保護者のつながりも円滑に進むようにしていきたい。
- ・然るべきタイミングで、早めにスケジュールが示されるとよい。団地の特性として、新しく拠点となる学校の近くに、住民自身が集まってくることも期待できるのではないか。
- ・地域と学校の距離を近くしたい。
- ・市全域で学校選択制を導入してはどうか。

※ 各意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。